

公開講演会のお知らせ

日時 2019年5月23日(木)  
12:50~14:30 (12:30開場)

会場 宇都宮大学峰キャンパス5号館  
5B12教室

参加料 無料・事前申し込み不要



講師: *Mark Tilton* 博士 (米パデュー大学政治学研究科准教授)

アメリカの気候・エネルギー政策

～オバマ政権からトランプ政権への移行は、

アメリカに何をもたらしたのか?～

オバマ大統領は、歴代米大統領の中でも気候変動問題への尽力を惜しまない一人でした。国内ではクリーン電力計画始め数々の本格的な温暖化対策に着手しました。また、国際協調路線を重んじて2015年のパリ協定にも調印しました。一方、2017年に着任したトランプ大統領は、オバマ政権の気候変動政策を白紙撤回しました。パリ協定からも離脱を決めました。このような連邦レベルでの劇的な変化にもかかわらず、米国の気候エネルギー政策の大きな部分は州レベルにおいては依然として推進され実施され続けています。オバマ政権からトランプ政権への移行は、米国社会の気候取組みに何をもたらしたのでしょうか。本講演では、トランプ時代の米国の気候政策を、幅広い観点から考察します。(※講演は日本語で行われます)

【マーク・ティルトン博士略歴】

パデュー大学政治学研究科准教授。パデュー気候変動研究センター研究員。カリフォルニア大学バークレー校博士。東京大学、独ハンブルグ大学、ベルリン社会科学センター、ウッドロー・ウイルソン・センター、ジョージ・ワシントン大学、ノースウェスタン大学において客員研究員歴を有する。現在、再生可能エネルギー政策を主要な研究テーマとしている。主な著書として、*Restrained Trade: Cartels in Japan's Basic Materials Industries*, “Seeds of an Asian E.U.? Regionalism as a Hedge against the U.S. on Telecommunications Technology in Japan and Germany” and “German-Japanese Climate Change Relations.”